

好業績に驕ることなく、原点に返ってゲストにハピネスを提供

オリエンタルランド社長(兼)COO 上西 京一郎氏

入園者数、売上高、利益とも過去最高を記録

本誌 昨二〇二二年度(二〇二二年四月～二〇二三年三月)の東京デイズニールゾート入園者数は過去最高でした。

上西 昨年度の東京デイズニールゾートと東京デイズニールシーの二パーク合計の入園者数は二七五〇万三〇〇〇人と過去最高になり、二〇二一年度に比べ約二二五万人増えました。これは、昨年七月に東京デイズニールシーにオープンした新アトラクション、トイ・ストーリー・マニアが人気を集めるとともに、ミッキーとダッフィーのスプリングヴオヤッジ(東京デイズニールシー)やデイズニール夏祭り(東京デイズニールランド)といった昨年から新たに開催したスペシャルイベント、さらにハロウィンやクリスマスといったバラエティに富んだ四季折々のスペシャルイベントがゲストから好評を博したことが大きな要因で、加えて、夏休みや第4四半期などが天候に恵まれたこともありました。なお、一九八三年四月の東京デイズニールランド開園から昨年度末までの二パーク合計の

累計入園者数は五億六千七百万四〇〇〇人にのぼっています。

本誌 昨年度は売上高、利益ともに過去最高となりました。

上西 前述のように、昨年度は新アトラクションやスペシャルイベントが好調で入園者数が過去最高になったうえ、ゲスト一人当たりの売上高も過去最高になったため、売上高が前期比九・九%増の三九五億二六〇〇万円、営業利益が同一・七%増の八一四億六七〇〇万円、経常利益が同一・一%増の八〇八億六七〇〇万円、純利益が同六・三%増の五一四億八四〇〇万円といずれも過去最高になりました。このうち、テーマパーク事業は売上高が同一・七%増の三二九八億一四〇〇万円、営業利益も約二二%増と大幅増収増益になりました。

本誌 テーマパーク事業に加え、ホテル事業も好調でした。

上西 ホテル事業も各デイズニールホテルが通常営業に戻ったことに加



開園30周年パレード

えて入園者数が増加したことから、客室稼働率が東京デイズニールランドホテルは九〇%台前半、東京デイズニールシー・ホテルミラコスタは九〇%台後半、デイズニールアンバサダーホテルは約八〇%といずれも前期を上回り、売上高は前期比一五・九%増の四八九億二四〇〇万円と伸び、営業利益も約二六%増加しました。

本誌 今二〇二二年度の業績も過去最高を更新する見込みですが、今年四月一五日に開園二〇周年を迎



上西京一郎（うえにし・きょういちろう）氏
 1958年1月東京都生まれ。1980年・中央大学文学部卒業。同年・オリエンタルランド入社。2001年・総務部秘書役。2003年・総務部長。同年・取締役総務部長。2005年・取締役執行役員総務部長。2006年・取締役執行役員。2008年・取締役執行役員経営戦略本部長。2009年・代表取締役社長(兼)COO社長執行役員に就任。

えましたので、同日から来年三月二〇日まで「東京デイズニールゾート」三〇周年「ザ・ハピネス・イヤール」を開催しており、新しい昼のパレードなどさまざまなイベントを展開しています。また、この五月には新アトラクション「スター・ツアーズ・ザ・アドベンチャーズ・コンティニュー」が東京デイズニールゾートにオープンしました。こうした開業三〇周年イベントや新アトラクションにより、今年度の東京デイズニールゾートの入園者数は過去最高の二七七〇万人が見込めることなどから、二

浦安、京都などの四ブライトンホテルを買収

〇一四年三月期の売上高、利益ともに過去最高を更新すると予想しています。ただ、こうした好業績に驕ることなく、原点に返って「ゲストにハピネス（幸福感）を提供する」というデイズニールの基本理念の浸透をさらに図りたいと思っています。基本理念を大事にしながらゲストの求めるものを汲み取って、ハード、ソフト面の投資をしっかりと進めていきたいと考えています。

本誌 千葉県や京都府などにホテルを所有するブライトンコーポレーションを買収しましたが。
 上西 当社の子会社で二つのデイズニールホテルと新浦安のパーム&フアウンテンテラスホテルを運営するミリアルリゾートホテルズが、今年三月にブライトンの全株式を親会社の長谷工コーポレーションから取得し、浦安ブライトンホテルと京都ブライトンホテル、ホテルブライトンシテイ京都山科、ホテルブライトンシテイ大阪北浜の四ホテルが同社の傘下となりました。この買収は、東

京デイズニールゾートの宿泊プランなどで提携している浦安ブライトンホテルの取得による東京デイズニールゾートへのシナジー効果に加え、京都エリアでのホテル事業展開が見込め、舞浜以外での事業を始めるチャンスにもなると判断したもので、今後はホテルにとどまらず事業地域の拡大を検討していきます。このほか、東京デイズニールゾート近隣の土地に多少の余裕がありますので、その用途も検討していきます。
 本誌 今後の東京デイズニールゾート成長への課題は。

上西 東京デイズニールゾートの原点は、ゲストにいかにハピネスを感じていただくか、そしてゲストにどうホスピタリティを提供するかで、これは開業以来変わっていません。昨年度の業績は良い形となりましたが、そこに驕りを持たず、原点に返り、常に良い意味での緊張感、危機感を持って、ゲストのために何が出るかというところから、すべてをひも解いて実行していく、また、それらを継続していくことだと考えています。